

令和8年度 第1回学校運営協議会及び第1回コンプライアンス委員会 報告

1 日 時 令和8年5月29日（金）午後1時30分から3時30分まで

2 会 場 藤枝特別支援学校焼津分校 相談室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

委員A、委員B、委員C、委員D 4人

(2) 本校職員

校長、副校長、事務長、部主事、教務主任 5人

4 会議次第

(1) 開会／校長挨拶

(2) 校内参観

(3) 協議

(4) 第1回コンプライアンス委員会

(5) 校長挨拶／閉会

5 会議内容

(1) 開会

ア 校長挨拶

・焼津分校は平成25年に設置、今年で14年目を迎える。現在は全校生徒48名。

「ひびき合いつくり合う」を教育目標とし、合言葉を「地域で自立し地域に貢献する人」としている。生徒達は日々「なりたい自分」に向けて、挑戦をしている。分校の特色として、焼津水産高校との同じ敷地内での交流及び共同学習がある。お互いの良さを知り、相手も自分も大切に学ぶとなっている。地域との繋がりも深く、作業学習で連携したり地域の海岸清掃をしたりしている。地域に恵まれてた学校である。本日は、学校運営協議会委員の皆様からいただいた意見を学校運営に活かしていきたい。

イ 自己紹介

ウ 目的の説明

・会の目的を明確にし、委員の皆様から意見をいただき、学校運営に対する充実を図ること、と説明。

エ 任命状交付

・静岡県立学校における協議会の設置等に関する規則第7条の規定に基づく県立学校運営協議会委員の任命状が委員の皆様へ交付された。

(2) 校内参観

【校内参観を終えての委員の感想】（意見（・）と、それに対する回答（→））

- ・書道の授業における言葉のチョイスや「数の力」といった表現がユニークで、生徒の自己表現力の高さが感じられた。
- ・音楽の授業で生徒達が非常に楽しく、かつ真剣に取り組んでいる姿に感銘を受けた。
- ・会社のカレンダー作りを分校のサービス班に依頼し、ラストページで、製作者として分校の宣伝をしている。身体で表現することは楽しく、アートや造形を通じたコミュニケーションは教育的にも有効であると感じた。
- ・開校から14年農業で分校と携わっている。音楽はより楽しく、書道はより真剣に取り組む姿が見られ、嬉しく感じた。

→今後は、作業学習の様子なども参観いただきたい

(3) 協議

ア 会長・副会長の選出

- ・協議の結果、2名の方が選出された。

イ 令和8年度 学校経営計画および教育活動の説明及び協議

(ア) 今年度の重点的な取組についての説明。

- ・学校経営計画の4本柱である「安全安心」「授業」「連携」「チーム」を軸に、生徒の「なりたい自分」へのチャレンジを支援する。
 - ① 安心安全では、昨年の秋の大雨から緊急時の対応を見直し、具体的な場面を想定しての研修の実施、危機管理マニュアルの更新をしている。また、生徒の困りごとの把握として「木曜アンケート」やSC（スクールカウンセラー）などを活用し、組織的に対応を図るようにしている。
 - ② 授業では、ICT端末の活用を進め、調べるまとめるだけでなく、それを授業で紹介し合い友達とのやりとりや考えを広げるツールとしての活用を目指している。
 - ③ 連携では、共生共育の実現を目指し、事前に目的を理解してから取り組む交流学习を継続していく。また、地域への積極的な発信として、Instagramの活用を進めていく。今年度は、学年だよりもInstagramで発信している。
- ・グラウンドデザインについては、「毎日元気に生活する力」「社会の一員として生活する力」「自立に向けた意思決定の力」の3つを育てたい力として定義している。
- ・具体的な教育活動では、教育課程の中心となる作業学習で、3学年縦割りの自主生産作業（木工、縫製、サービス、農園芸）において、地域企業と連携した製品の製作、プロの技の習得なども取り組んでいる。職場実習前には、地元の企業から資材を提供していただき委託作業をしながら一日働くための体力や態度の育成をしている。

ウ 質疑応答（質問（・）とそれに対する回答（→））

- ・危機管理の面で、危機管理マニュアルの保護者との共通理解は？

→マニュアルすべてではないが、重要な部分については抜き出して周知を図っている。

- ・困りごとのある生徒への支援について、SCだけでなく外部機関との橋渡し役としてSSW（スクールソーシャルワーカー）の活用を教育委員会と検討し始めている。SCは待ちの姿勢であるのに対し、SSWは、積極的に困っている生徒を発掘し環境を整える役割。それぞれの専門性がある。

→校内及び外部機関との連携は、学校ではコーディネーターが担っている。

- ・相談について、最近のニュースでも誰に相談していいかわからない、ということでネットに相談をしたことが話題になった。上手に活用できればいいが、相談の仕方色々あり、そういった相談方法を生徒が選ぶことがあることを教員も知っておく必要がある。

- ・大学生でも誰に相談していいかわからない、という生徒がいる。相談できない生徒が多い。

→生徒の「相談力」について、分校でも在校中に身に付ける必要性を感じている。

そのため、今年はSCとの面談を相談の練習の場として活用をしていく。面談を通してSCからも気になる生徒がピックアップされ、支援につなげられる相乗効果もある。アンケートは各種あり、それぞれの結果を踏まえ、SC面談やミニケース会などの校内支援につなげている。

→ICTを使った意見交換による学びの深まりを目指す一方、AI利用におけるリテラシー教育も実施していく。

- ・ICT端末の活用促進について、いつまでにどういう形でというステップを決めておくと評価がしやすい。達成方法の具体化されたものはあるのか。

→達成方法の更に具体化はないが、それを担う分掌の経営案に書かれている。

- ・上記のことについて、本来ならば3年計画などで、1年目にここまで目指すといった計画の立て方があると思う。学校では転勤があるため、一年ごとの区切りとなると思うが、今年ここまでを目指す、という目安があると評価がしやすい。

- ・評価の見える化について、Instagramの反響を数値で見られるインサイトというものがある。どんな記事が読まれているかなどの分析がされている。

→評価について、昨年度まで達成率〇%、という評価だったものを、達成は100%を目指すことを前提に、行動目標に変えている。今後また検討していきたい。インサイトについては、情報担当に伝え、活用を考えていく。

- ・「なりたい自分」について、昔は漠然としか考えていなかったが、現代は小学生から『海外に通用するサッカー選手になりたい』という目標を持って取り組むという話も聞く。目的意識を持って取り組んでいることが感じられる。

- ・「なりたい自分の見える化」について、今どのような取組をされているか。

→「ステカ」というチェック表を用いて自分の課題の把握をし、それに向けてどのくらい近づいているか、確認する取組を行っている。

(4) 第1回コンプライアンス委員会

ア 不祥事根絶への取組計画説明

- ・教職員が手本となる言動を意識することや人権の尊重、複数の体制での生徒指導の徹底を行う。また、特色ある取組として、毎月の研修、人権チェックシートによる振り返りとグループワークでの共有を行う。
- ・未然に防ぐ仕組みを整える。

イ 意見

- ・言葉遣いについて、企業では「使ってはいけない言葉」を一覧にして、日常から気を付けるようにしている。また、五日市剛氏の「魔法の言葉」の著書には、「(ありがとう・感謝します)」が紹介されている。生徒にとっても分かりやすく活用しやすい言葉だと思う

→言葉遣いについて、生徒への紹介や活用を検討していきたい。

(5) 閉会

ア 校長挨拶

- ・各委員の皆様から貴重な意見をいただき感謝している。学校経営については、評価について、数値目標だけでなく、教員の具体的での行動評価の基準を示していけるようにしたい。また、生徒の「相談力」の向上や、言葉を大切にしたチーム作りを進めていきたい。

イ 連絡

- ・6月9日～12日のオープンスクール期間中に自由参観という形で実施予定。